

# 大田市駅周辺東側地区まちづくり瓦版

## 第 3 回商業活性化部会を開催しました！！

昨年度組織したワーキンググループを 3 部会に再編し、大田市駅周辺東側地区のまちづくりを具現化するために、より具体的な検討を行うことを目的に、平成 24 年 10 月 4 日（木）に「第 3 回商業活性化部会」を開催しました。

第 3 回は商業活性化に向けたこれまでの意見を振り返り、商業活性化のための事業計画、体制づくり等今後の取組みについてみなさんと検討しました。

### ■ 第 3 回大田市駅周辺東側まちづくり検討“商業活性化部会”実施概要 ■

- 日 時：2012 年（平成 24 年）10 月 4 日（木） 19:00～21:00
- 場 所：商工会議所 2F
- 参加者：9 名（商工会議所、地区内外自治会長、商店主、住民等）
- プログラム

18:30 ～ 19:00（30 分）	受 付
19:00 ～ 19:05（5 分）	開会のあいさつ、趣旨説明
19:05 ～ 19:25（20 分）	商業活性化に向けたこれまでの意見の振り返り、 市民意見の確認（アンケート結果）
19:25 ～ 20:50（85 分）	ワーキング（商業活性化への取組みについて）
20:50 ～ 20:55（5 分）	総括・感想
20:55 ～ 21:00（5 分）	今後の予定、閉会のあいさつ



部会の様子

●発行：大田市 建設部 都市計画課 都市計画係

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111

TEL (0854)82-1600 (代表) FAX (0854)82-1722

■昨年度開催したワーキンググループの検討の中で出され意見・アイデアをもとに今後、商業活性化のために取組んでいかなければならないことについて検討しました。

#### 【参加者からの意見紹介】

まちの将来像を踏まえての検討	10 年後のまちのあり方を踏まえた上で検討すべきである。例えば、まちの中心をどこにするのか、どこに商店街を作るか等のまちづくり全体のビジョンを構築する必要がある。
	若者は減っていく、人口も減っていくことを前提として商業活性化を考える必要がある。
	商店街に新しい店舗や経営者が入りやすい仕組みづくりや支援を考慮しながらまちづくりを行うべき。
	将来、商店街や振興組合が無くなり、家も古くなり、空き地となっている可能性もある。将来を予想した上での検討が必要。
商店集積・新規参入	将来のまちのあり方を検討すると商店街のあるべき姿が見えてくるのではないかな？
	人口が将来減少していくとすれば商業店舗も必然的に減っていく。そのため、店舗の集約を図る必要があるのではないかな？
	商売をやりたい人もいる（チャレンジショップの実績等）が、店舗を貸してくれるところが少ない。また、駐車場が無く借り手がない。商店街がディベロッパーとなり、店舗を購入し貸し出すという例もある。
行政支援	商業はまちの機能の一つ、行政支援があっても良い。
	空地进行を行政が買って、安く貸し出すということをやってはどうか。商店は自分たちで将来ビジョンを描き、その上で自分たちがやること、行政にお願いすることを決めていかなければならないのではないかな？
駐車場	駐車場があれば周辺の飲食店が利用される傾向がある。
	駐車場がないということが大きな問題である。
検討方法について	個々の取組みを議論しても一つ一つ合意できないのではないかな？
	中途半端な形ではこれまでと変わらない。
	新しい仕組みステージでの議論をすべき。

#### 【松江工業高等専門学校 浅田教授の感想・総括】

商業活性化部会の次回からのやり方、進め方等全体的なことも考えて色々工夫をしないといけないが今日みなさんが話された色々な問題は今日の成果になるのではないかな。

商店もまず自分の店をしっかりとやっていこうということで、みなさん努力されて、精一杯、今やっておられる。この場は個人の努力だけでは厳しい状況にあるため、みんなで「協力して出来る事はないかな」等、工夫を広げていく場でもあるし、みんなで協力していく場でもあると思う。今日の場には商店街の方をはじめ、行政のいろんな部署の方も来ており、仕組みや工夫づくり等の元となる方がいっぱい集まっていると思うので、ここを中心に話が進んでいけば良いと思う。色々な立場で様々な想いで集まっていると思うが、目標はみなさん一緒だと思うので、何とか協力しあって、何とか解決していくような検討、取組みを目指していきましょう。